

※このメールは、MIT・エナジー・ビジョン社の視察セミナーにご参加頂いた方々に BCC でお送りしています。

※四半期に1度程度、メールニュースをお送りします。

※お手数ですが、ご迷惑に思われる方は、「送付不要」とだけ記して、送信者に返信していただけますと送付リストから外します。よろしくお願いいたします。

皆さま、こんにちは。9月に入り、ドイツでは夏が終わりました。今年は35度を超える猛暑日が頻繁にあったライン平野の夏でしたが、現在は最高気温も20度に届かず、雨の多い日が続いています。

今年の日本の夏は多くの地域で雨が異常に多かったようです。アメリカにも現在、史上最大規模のハリケーンが到来しています。気候変動の影響だとは一口に言い切ることはできませんが、不穏な感じがしています。

さて今回も、MITメンバー3名から、皆さまにコラムと各種の告知についてメールニュースをお送りします。今回は、村上→滝川→池田という順で告知を挟みながらコラムを書いています。とくに今回は、電気自動車についての論考です。大量のマイカー(ガソリン、ディーゼル車)をそのままそっくり電気自動車に置き換えるだけでは問題は解決しないようです。さて、最後までお楽しみください(村)。

## MIT:村上

### ドイツ居住者にとっての日本という国

今年の夏休みには子どもたちを連れて日本に帰省し、休暇を楽しみました。通常、私は仕事とプライベートは完全に分けることを家族との対話で取り決め、心掛けているのですが、今回は少し特別にこの休暇で子供たちが感じたことをここでお伝えしたいと思います。

私の子供たちは、私という父親の職業柄、再生可能エネルギーや環境保護というものに多少の興味は持っているものの、とりわけそれを強調して教育してきたことはありません。環境保護などのテーマについては、ごく一般的なドイツに居住する歳相応の若者の知識と態度を有しているだけのように感じています。

そんな子供たちですが、日本に滞在しているとドイツをはじめとする欧州とのあまりの違いに愕然とすることが多々あったようで、「なぜ日本では〇〇なの？」ということを探り返し私に聞いてきました。その内容を取りまとめると以下のような4つのタイプに分けられます。

### 1. 正気とは思えない過剰包装

コンビニでペットボトルの水を一本買っただけでも袋に自動的に入れられ、テイクアウトのコーヒーを買っただけでも袋に入れられ、新幹線でコーヒーを買うと、飲んだ後のカップを捨てるための新品のプラスチック袋を手渡され、スーパーでお菓子を買えば中身は愕然とするほど少ないので一瞬で食べてしまいますが、包装容器のゴミの山が残る…こんなにプラスチックを無駄に消費することに罪悪感を感じないのだろうか？

### 2. 自動販売機

キオスクで飲み物を販売しているすぐ隣の駅構内に留まらず、街中でも、コンビニの隣でも、スーパーの出入り口の近くでも、見渡す限り何も無い人里離れた農村でも、常に、社会の至る所にキンキンと冷えた飲み物が出てくる自動販売機がくまなく設置されている様に愕然。便利というには行き過ぎた「量」に、こんなに無駄に電気を消費している自販機を大量に設置することに罪悪感を感じないのだろうか？

### 3. テレビ・音楽との付き合い方

デパート、商店街、プール、道の駅、カフェ、レストラン…日本の公共スペース、半公共的なスペース、そして商業スペースには、キンキンと音程の高いキッチュな音楽が無制限ループで大音量で流れていてウンザリ…また、多くの飲食店や販売店などでは、誰も観ていないのにテレビが流しっぱなしになっていて…でも、電車内での携帯電話は周りの人に迷惑なので禁止されているというのには??? 日本人の耳はどうなっているの？

### 4. 生物との付き合い方

水族館ではあまりの水槽の狭さ、雑多さなど、欧州水準の生物との付き合い方とは異なる(彼らにとっては)虐待としか映らない展示に、入って早々に半泣きで退場…

もちろん、日本の素晴らしいところもたくさん発見してくれましたが、日本人の父親として自身の故郷を子供たちに紹介する際、こんなところを指摘されると、すぐに改善して欲しいなあと思っています。

**！お知らせ！**

**★「フォーアールベルク州における持続可能な建築」が発刊されました**

パンフレット「フォーアールベルク州における持続可能な建築」の日本語版が発刊されました。日本でも注目されている持続可能な建築の先進地域である西オーストリア・フォーアールベルク州の取り組みを、美しい写真と共に紹介した約 30 頁の冊子です。著者はエネルギー研究所フォーアールベルク。日本語版の翻訳はミット・メンバーの滝川が行い、東北地方の省エネ建築に携わる企業や団体により発刊が実現しました。下記より、お取り寄せが可能です(一冊 500 円)。

ご注文先: 岩手県中小企業同友会 [info@iwate.doyu.jp](mailto:info@iwate.doyu.jp)、TEL 019-626-4477

**MIT: 滝川**

**オーストリアの農村部で増える E-カーシェアリング**

9 月は視察が特に多い季節です。先週はお隣の国であるオーストリア中東部を訪れる機会を得ました。オーストリアでもエネルギー・ヴェンデや気候保全に野心的な目標を立てて取り組んでいる地域では、どこを訪れても交通という問題分野に悩んでいるという報告を聞きます(多角的な対策や努力にも関わらず CO2 排出量が減らない)。そのような中、電気自動車の普及は多くの対策の一つにすぎませんが、オーストリアの州や自治体では豊富な再生電力を背景として、特に力が入れているように感じました。

中でも興味深かったのは、町だけでなく、農村部で普及してきている E-カーシェアリングです。村庁舎の業務用車を電気自動車に交換し、それを住民にカーシェアリング車としても提供するモデルはかなり普及しています。その他、住民が中心となって 10 世帯ほどで電気自動車を共同購入し、それに必要な機材を取り付けてシェアするタイプも多いそうです。いずれにしても農村部の家庭で 2 台目の車を節約することが目的です。

例えば、ウィーンを取り囲むニーダーエスターライヒ州では、州の 70 カ所でそのような農村型 E-カーシェアリングが実現されており、州の推進政策も受けて、その数はどんどん増えているそうです。人口 165 万人の同州では、2020 年までに自動車ストックの 5%を電気自動車に転換することを目標としています。そのような政策と裏合わせるように、2015 年には電力分野での 100%再生可能エネルギー目標を達成しました。豊富なドナウ川の水力に加えて、豊かな風資源を生かし、電力の 3 割を風力で供給し

ています。風力と太陽光については電気自動車の普及やセクターカップリングに備えて今後も拡張を継続していく戦略です。

私はスイスでの経験から、カーシェアリングと言えば主に公共交通の便の良い場所が適した立地であると思い込んでいました。しかし、電気自動車の機能向上と安い再生電力により、今日では農村部にも適したモデルに進化していることをオーストリアで目の当たりにした次第です。

## ！お知らせ！

### ★MIT 村上の共著の出版 『海外キャリアのつくりかた』

皆さんの生活に欠かせないエネルギー。とは言っても、とりわけ日本の若手にとって、エネルギーは目に見えないので、エネルギーとは何か、なぜ必要なのか、私たちはどのようにエネルギーを使っているのかを意識したことは少ないかもしれません。

この本を書いている5人は、それぞれのきっかけからドイツに住むようになり(1人はドイツ生まれですが)、日本のエネルギーのあり方に疑問を持ち、ドイツのエネルギーに対する取り組みを見つめながら仕事をするようになりました。

学生をはじめとする日本の若手の皆さんに本書では、「ドイツのエネルギー転換」と「5人の海外における仕事は何か？ どんない経緯で、何を考えて、何をドイツでしているのか？」の2つのテーマについてお伝えできればと思います。

<http://amzn.to/2hDY5Tx>

## MIT: 池田

### 電気自動車の問題、課題

電気自動車は、政治的な支援も受けて、今後急速に増加していくことが予想されています。しかしいくつかの問題、課題があります。

電気自動車の環境メリットは、走る場所では、気候変動ガスを排出しない、電源が再生可能エネルギーであればさらに良い、ということです。

しかし自動車の製造、特に蓄電池の製造における気候変動ガス排出は、今年発表された IVL スウェーデン環境研究所の研究分析によれば、かなりの量があります。例えば日産リーフの場合は 5.3 トン、テスラー S であれば 17.5 トンの二酸化炭素が製造で排出されています。同じクラスのカソリン車と比較すると、日産リーフでカソリン車の走行 3 年分、テスラー S で 8 年分です。

また、電池の主要原料であるリチウムの採取の際の環境負荷の問題もあります。リチウムの産地は、ボリビア、アルゼンチン、チリ、アフガニスタンなどの限られた地域ですが、採取に大量の水が必要とされ、採取後に汚染水が生じることなどで、周辺地域で水不足や農地の汚染の問題が生じています。また、現在においては電気自動車は全体の 1% 以下ですが、これが今後急速に増えていくとなると、資源不足が起こることが予想されます。蓄電池の性能の強化、革新がどれくらいのスピードで行われるかにもよりますが。

また、現在のリチウムイオンバッテリーは、そのほとんどがリサイクルされずに廃棄されています。リサイクル技術の研究開発も大きな課題です。

**！お知らせ！**

### **★ソーラーコンプレックス社による日本語ニュースレター**

ミット・エナジー・ヴィジョンでは、南ドイツの市民エネルギー企業ソーラーコンプレックス社が発行するニュースレターの日本語版の作成をサポートしています。同社の活動は、日本で地域密着の再生可能エネルギー事業に取り組む方々にも参考になると考えます。下記リンクからニュースレターを読むことができます。

<http://www.solarcomplex.de/aktuell/newsletter.html>

**！お知らせ！**

### **★100%再生可能エネルギー地域のブログ**

「100%再生可能エネルギー地域のブログ」では、新エネルギー新聞(新農林社)の了承を得て、同誌に掲載された滝川執筆のニュース記事の一部を転載しています。下記リンクからご覧ください。

<http://blog.livedoor.jp/eunetwork/>

今回のメールニュース、いかがでしたか？ それでは、次回もお楽しみに！